

7/27

第414回 定期演奏会

The 414th Subscription Concert

妖艶そして官能…コンサートオペラで味わい尽くす「サロメ」

7月27日(木)開演:午後7時

27th July (Thu.), 2023 19:00

アクロス福岡シンフォニーホール

ACROS Fukuoka Symphony Hall

指揮 沼尻竜典

Conductor : Ryusuke Numajiri

サロメ 田崎尚美

Salome : Naomi Tasaki

ヘロディアス 谷口睦美

Herodias : Mutsumi Taniguchi

ヘロデ 福井 敬

Herod : Kei Fukui

ヨハナーン 大沼 徹

Jochanaan : Toru Onuma

ナラボート 清水徹太郎

Narraboth : Tetsutaro Shimizu

ヘロディアスの小姓 山下裕貴

Page of Herodias : Hiroka Yamashita

ユダヤ人1 小堀勇介

Jew1 : Yusuke Kobori

ユダヤ人2 新海康仁

Jew2 : Yasuhito Shinkai

ユダヤ人3 山本康寛

Jew3 : Yasuhiro Yamamoto

ユダヤ人4 澤武紀行

Jew4 : Noriyuki Sawabu

ユダヤ人5 加藤宏隆

Jew5 : Hirokata Kato

ナザレ人1/カッパドキア人 大山大輔

Nazarene1/Cappadocian : Daisuke Oyama

ナザレ人2 大川信之

Nazarene2 : Nobuyuki Okawa

兵士1 大塚博章

Soldier1 : Hiroaki Otsuka

兵士2 斉木健詞

Soldier2 : Kenji Saiki

奴隸 渡辺玲美

Slave : Reimi Watanabe

コンサートマスター 扇谷泰朋

Concertmaster : Yasutomo Ogitani

舞台構成 榎原 徹 音楽ヘッドコーチ 石坂 宏 アシスタント 小林雄太 コレペティトゥア 平塚洋子 原語指導 高折 績

リヒャルト・シュトラウス

Richard Strauss

楽劇「サロメ」作品54, TrV215(演奏会形式)

Opera "Salome" Op.54, TrV215(Concert Style)

ご来場のお客様へ

本公演終了後に、ロビーにて楽団員有志が皆様をお見送り致します。わずかな時間ではございますが、お気軽にお声がけください。

※〈プログラムノート〉はP.23~P.27をご覧ください。

主催 / (公財)九州交響楽団

協賛 / 椎木正和

協力 / (公財)アクロス福岡

助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

(公財)アフィニス文化財団・福岡県・福岡市

後援 / 福岡県・福岡市・(公財)福岡市文化芸術振興財団・NHK福岡放送局・

(公財)九州文化協会・福岡文化連盟・九響後援会

※神奈川フィルハーモニー管弦楽団、京都市交響楽団との3オーケストラ連動企画



指揮

沼尻竜典

Conductor

Ryusuke Numajiri



神奈川フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督、びわ湖ホール桂冠芸術監督。ベルリン留学中の1990年、ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。以後、ロンドン響、モントリオール響、ベルリン・ドイツ響、ベルリン・コンツェルトハウス管、フランス放送フィル、トゥールーズ・キャピトル管、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、シドニー響、チャイナ・フィル等、世界各国のオーケストラに客演を重ねる。国内ではNHK交響楽団を指揮してのデビュー以来、新星日本響、東京フィル、名古屋フィル、日本フィル、群馬響、日本センチュリー響のポストを歴任。ドイツではリュベック歌劇場音楽総監督を務め、オペラ公演、劇場専属のリュベック・フィルとのコンサートの双方において数々の名演を残した。ケルン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オペー、バーゼル歌劇場、シドニー歌劇場等へも客演。16年間にわたって芸術監督を務めたびわ湖ホールでは、ミハエル・ハンペの新演出による《ニーベルングの指環》を含め、バイロイト祝祭劇場で上演されるワーグナー作曲の主要10作品をすべて指揮した。14年には横浜みなとみらいホールの委嘱でオペラ《竹取物語》を作曲・初演、国内外で再演されている。17年紫綬褒章受章。

Music Director of Kanagawa Philharmonic Orchestra. After winning at Besançon Competition he has been invited by international orchestras such as London Symphony, Montreal Symphony, Orchestre du Capitole de Toulouse, DSO Berlin, Sydney Symphony, Saito Kinen Orchestra and also by the opera theaters like Cologne Opera, Komische Oper Berlin, Bayerische Staatsoper, Opera Australia and New National Theatre Tokyo. He had led successful productions at Theater Lübeck as General Music Director. At Biwako Hall, during 16 years as Artistic Director he has been achieving tremendous success on the productions including Wagner's "Der Ring des Nibelungen". He was awarded Medal of Honor with the Purple Ribbon by Emperor of Japan in 2017.

7.27 (木) 第414回 定期演奏会

サロメ(ソプラノ) 田崎尚美

Salome (Soprano)  
Naomi Tasaki



東京藝術大学卒業。同大学院及び二期会オペラ研修所修了。オペラでは二期会『サロメ』タイトルロール、『タンホイザー』エリーザベト、『ワルキューレ』ジークリンデ、『神々の黄昏』第三のノルン、『パルジファル』クンドリ、日生劇場『ルサルカ』タイトルロール等に出演の他、22年には新国立劇場『さまよえるオランダ人』で急遽代役としてゼンタを演じ観客を魅了した。23年2月には二期会『トゥーランドット』タイトルロールで絶賛を博した。コンサートでもヴェルディ『レクイエム』、マーラー『交響曲第8番』等のソリストとして活躍。今最も注目を集めている実力派ソプラノである二期会会員。

Naomi Tasaki graduated Tokyo University of the Arts and completed Graduate School. She also completed Nikikai Opera Studio. She performed title role of "Salome", "Rusalka", "Turandot", "Tannhauser" as Elisabeth, "Parsifal" as Kundry. In 2022 She appeared at New National Theater's "Der Fliegende Hollander" as Senta and basked in the applause. In 2023 She appeared title role of "Turandot" again. She also appeared as soloist such as Beethoven's Symphony No.9, Mahler's Symphony No.8 Verdi's Requiem. A member of Nikikai.

ヘロデ(テノール) 福井 敬

Herod (Tenor)  
Kei Fukui

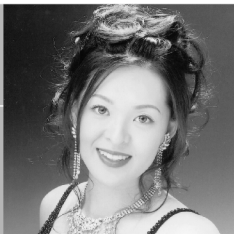


国立音楽大学大学院修了後、文化庁オペラ研修所を経て渡伊。二期会『ラ・ボエーム』でデビュー以来、数々のオペラに主演。群を抜く輝かしい声と卓越した表現力で長きにわたり日本を代表するテノールとして活躍。殊に『トゥーランドット』カラフは様々なプロダクションで称賛され、他にも『ローエングリン』『パルシファル』等のタイトルロールや『アイダ』ラダメスで好評を博す。コンサートでもZ.メータ指揮ウィーン・フィルと共演するなど国際的評価を得ている。第65回芸術選奨音楽部門文部科学大臣賞等受賞歴多数。国立音楽大学教授。東京藝術大学非常勤講師。二期会会員。

Kei Fukui graduated Kunitachi College of Music and completed Graduate School. He also completed at Opera Institute. He studied further in Italy. He performed title role of "Otello", "Lohengrin", "Parsifal". He also performed "Turandot" as Calaf, "Aida" as Radames. Fukui has been active as a leading tenor in Japan. He received the 2014 Minister of Education Award for Fine Arts. He is a professor of Kunitachi College of Music. A member of Nikikai.

ヘロディアス(メゾ・ソプラノ) 谷口睦美

Herodias (Mezzosoprano)  
Mutsumi Taniguchi



東京藝術大学卒業。同大学院修了。二期会マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。2006年『皇帝ティトの慈悲』セストで大成功を収め、その後二期会『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『椿姫』フローラ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『リゴレット』マッダレーナ、新国立劇場『ナブッコ』フェネーナ、びわ湖ホール『ラインの黄金』フリッカ、『リゴレット』マッダレーナ、『ローエングリン』オルトルート、『神々の黄昏』ワルトラウテ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラ等に出演。コンサートでもベートーヴェン『第九』、ヴェルディ『レクイエム』等のソリストをして活躍している。二期会会員。

Mutsumi Taniguchi graduated Tokyo University of the Arts and completed Graduate School. She also completed Nikikai Opera Studio and received grand prize. She performed "La clemenza di Tito" as Sesto, "Ariadne auf Naxos" as Composer, "Traviata" as Flora, "Don Carlos" as Princess Eboli, "Rigoletto" as Maddalena, "Rheingold" as Fricka, "Lohengrin" as Ortrud. "Gottterdammerung" as Waltraute, "Cavalleria Rusticana" as Lora. She also appeared as soloist such as Beethoven's Symphony No.9, Verdi's Requiem. A member of Nikikai.

ヨハナーン(バリトン) 大沼 徹

Jochanaan (Bariton)  
Toru Onuma



東海大学卒業、同大学院修了。大学院在学中、フンボルト大学(独)へ留学。二期会オペラ研修所を最優秀賞及び川崎静子賞を受賞して終了。日本声楽コンクール第3位。五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し渡独。2010年二期会『オテロ』イアゴ、『魔笛』パパゲーノをはじめ、『サロメ』ヨカーナ、『パルジファル』アムフォルタス、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、新国立劇場『沈黙』ヴァリニャーノ、『愛の妙薬』ベルコレ、日生劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『ルチア』エンリーコなどに出演。コンサートでもベートーヴェン『第九』、ブラームス『ドイツ・レクイエム』等で高い評価を得ている。二期会会員。

Toru Onuma graduated Tokai University and completed Graduate School. At same time he studied abroad at Humboldt-Universität zu Berlin. He completed Nikikai Opera Studio and received grand prize, Shizuko Kawasaki prize. He received Gotoh Cultural Award (Opera Newcomer Award) and study abroad in Germany. He performed "Otello" as Iago, "Die Zauberflöte" as papageno, "Salome" as Jochanaan, "Parsifal" as Amfortas, "Tristan und Isolde" as Kurwenal, "Silence" as Valignano, "L'elisir d'amore" as Belcore, "Cosi fan tutte" as Don Alfonso. "Lucia" as Enrico. He also appeared as soloist such as Beethoven's Symphony No.9, Brahms's German Requiem. A member of Nikikai.

ナラポート(テノール) 清水徹太郎

Narraboth (Tenor)  
Tetsutaro Shimizu

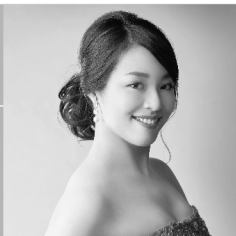


京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。第33回飯塚新人音楽コンクール声楽部門第1位、第82回日本音楽コンクール入選他多数上位入賞。文部科学大臣賞、平成30年兵庫県芸術奨励賞など多数受賞。「ボエーム」「魔笛」「オテロ」などオペラの出演も多く、沼尻竜典指揮令和3年度新国立劇場・びわ湖ホール共催「カルメン」ドン・ホセ役の好演は記憶に新しい。C=エッシェンバッハ指揮「千人交響曲」、チョン=ミヨンフン指揮「第九」のテノールソロを務める等国内外の活動も多数。びわ湖ホール声楽アンサンブルソロ登録メンバー。

Tetsutaro Shimizu was born in Kobe Hyogo prefecture, and he earned the Bachelor and Master's of Music degree in vocal performance from Kyoto city university of Arts. He has won numerous awards including 1st prize in the Iizuka music competition, 3rd prize in the Tokyo music competition, and selected finalists in the Japan music competition among others. His repertoire encompasses Baroque to modern opera, chamber music, and so on. He is belonging soloist registered member in the Biwako hall vocal ensemble.

ヘロディアスの小姓(アルト) 山下裕賀

Page of Herodias (Alto)  
Hiroka Yamashita



京都府出身。東京藝術大学卒業、同大学院修士課程を首席修了。同大学院博士後期課程単位取得。在学中、武藤舞奨学金を得てウィーンへ短期留学。第21回コンセール・マロニエ21第1位。オペラでは日生劇場主催オペラ2021年《カプレーティとモンテッキ》ロメオ役、2022年《セビリアの理髪師》ロジーナ役、藤沢市民オペラ《ナブッコ》フェネーナ役などに出演。コンサートではベートーヴェン《第九》、ヴェルディ《レクイエム》、デュリュフレ《レクイエム》、ヤナーチェク《グラゴル・ミサ》(大野和土指揮・東京都交響楽団)など、多数ソリストを務める。日本声楽アカデミー会員。

Hiroka Yamashita graduated from Tokyo University of the Arts and obtained a master's degree at the same university. In 2016, she won the 1st prize at the 21st Concert Marronnier 21. Yamashita has performed as Romeo in Capuleti e i montecchi, Rosina in Il barbiere di Siviglia, and Penena in Nabucco. In concert, she has sung in Beethoven's Symphony No.9, Verdi's Requiem, Durufle's Requiem, and Janáček's The Glagolitic Mass. She is a member of Japan Vocal Music Academy.

## 7.27 木 第414回 定期演奏会

西田紘子(九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授)

リヒャルト・シュトラウス(1864-1949)  
楽劇「サロメ」 作品54, TrV215 (演奏会形式)

実はヘロデは、自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアのことでヨハネを捕らえて縛り、牢に入れていた。ヨハネが、「あの女と結婚することは律法で許されていない」とヘロデに言ったからである。ヘロデはヨハネを殺そうと思っていたが、民衆を恐れた。人々がヨハネを預言者と思っていたからである。ところが、ヘロデの誕生日にヘロディアの娘が、皆の前で踊りをおどり、ヘロデを喜ばせた。それで彼は娘に、「願うものは何でもやろう」と誓って約束した。すると、娘は母親に唆されて、「洗礼者ヨハネの首を盆に載せて、この場でください」と言った。王は心を痛めたが、誓ったことではあるし、また、客の手前、それを与えるように命じ、人を遣わして、牢の中でヨハネの首をはねさせた。その首は盆に載せて運ばれ、少女に渡し、少女はそれを母親に持って行った。(日本聖書協会、新共同訳より)

これは、新約聖書「マタイによる福音書」第14章の一節である。古代パレスチナ北部、ガリラヤの領主ヘロデと妻ヘロディアの娘が、踊りをおどるご褒美として、預言者ヨハネの首をほしがる——この娘の名は、のちにサロメという呼び名で定着する。サロメにとって領主ヘロデは、血のつながりはあるが、実の父親ではない。

これまで多くの芸術家がこの話にひきつけられ、題材としてきた。絵画では、フランス象徴主義の画家ギュスターヴ・モローの『出現』(1876年、図1)がよく知られる。

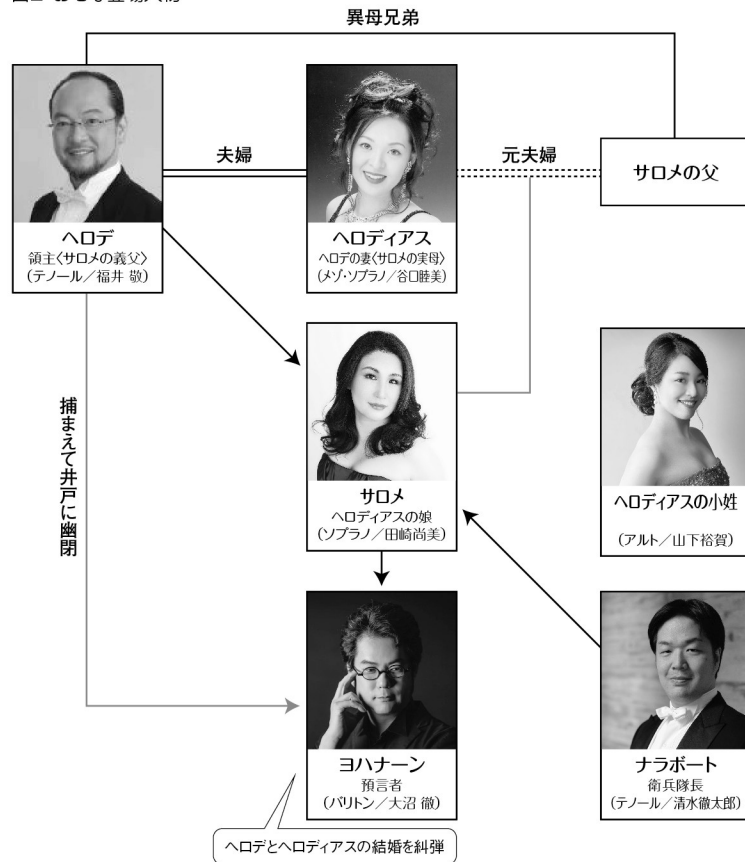


図1:モロー「出現」

シュトラウスは、1880年代からサロメの物語に関心を寄せていたが、直接的なきっかけとなったのが、アイルランド出身の作家オスカー・ワイルドが1891年にフランス語で書いた戯曲「サロメ」である。この戯曲は2年後に出版されたものの、聖書の登場人物を舞台化したこと、ヨハナーン(ヨハネのこと)に対するサロメの欲望があまりに露骨であったことなどから、イギリスではしばらく上演禁止となった。

1900年、ワイルドの戯曲は、女性詩人ヘートヴィヒ・ラハマンによってドイツ語に翻訳された。この翻訳を入手したシュトラウスは、歌詞や構成などに細やかに手を入れ、全1幕の音楽劇を書きあげた。おもな登場人物は図2のとおり。

図2: おもな登場人物



初演はドレスデン宮廷歌劇場で行われた。翌日の報告を読んでみよう。

[劇が終わると舞台上に] 歌手たちが40回ほど呼び出され、シュトラウス氏、[指揮者]フォン・シューフ氏、[演出の]ヴィルク氏も何回も姿をみせた。(『ドレスデン新聞』)

と観客の熱狂を伝える者もいれば、

2か月半ほぼ中断なく10時から午後2時半まで稽古した。シューフが指揮する時もあれば、ベルリンから時々やってきたリヒャルト・シュトラウスが指揮する時もあった。通し稽古に至っても困難があまた襲ってきたが、ついに乗り越えられた。(『新ウィーン・ジャーナル』)

とタフな稽古を強調する者もあり、

オーケストラ編成の新機軸として、弦楽器群は2倍、クラリネットは6人、チェレスタ、ヘッケルフォン、打楽器と鳴り物すべてが挙げられる。オーケストラは105人に達した。[中略]

サロメ役のヴィッティヒはけっして理想的な姿ではなかったが、出来栄はおおいに尊敬すべきものだった。ヘロデ役のブリアンはあらゆる点で完璧だった。同じくヨハナーン役のペロンも好調であった。(『ドレスデン音楽新聞』)

と記す者もいた。当時の臨場感が感じとれる。

ちなみに、オーストリアで初めて上演されたのは、検閲の厳しいウィーンではなく、グラーツであった。1906年5月、作曲者が指揮したこのグラーツ公演ではマーラー、ツェムリンスキー(1910年にウィーンで本作を指揮)、プッチーニ、シェーンベルク、ベルクなどが観劇した。

本作では「月」が重要なモチーフになっている。明るく輝く満月のもとに劇は展開する。第1場で月はサロメと重ね合わされ、第2場ではけがれを知らぬ乙女に、第3場ではヨハナーンの白き身体にな

ぞらえられる。第4場に入ると、ヘロデにとって月は不吉な存在となり、ヨハナーンは月が血のように赤くなることを預言する。サロメ殺害が近づくと月は隠れ、ヨハナーンの唇や血が表す赤のイメージで幕が下りる。

### 第1場

前奏曲なしに劇が始まる。サロメへの憧れをつのらせる衛兵隊長ナラポートと、井戸から堂々たる声を響かせる預言者ヨハナーンが対比される。

### 第2場

いやらしい目の義父から逃れてサロメが登場。母を悪く言う預言者を井戸から連れだすよう兵士たちに命じる。ハーブとともに官能的に迫られたナラポートは、ついにヨハナーン——ホルンの荘重なモチーフが鳴り響く——を井戸から出す。

### 第3場

サロメは、ヨハナーンの身体、髪、唇に欲情して「触らせて」とくり返し請う。ヨハナーンは断固として拒否するが、その確固たる音型にはまがまがしい不協和音が混じる。自身の忠告にまったく耳を傾けないサロメに絶望したナラポートは、自らを刺し殺す。

いらだつサロメに対して、預言者は「呪われよ」と宣告。ヴァーグナーを思わせる半音進行も活用され、3人の会話がかみ合わぬ状況を音楽が強調する。

### 第4場

ヘロデとヘロディアスが現れる。細かい音型で風のうねりが描かれるが、風はなぜかヘロデにしかきこえない。

酒や果物でサロメの気をひこうとするヘロデのメロディは、こっけいな節回し。そして、ヨハナーンについてユダヤ人やナザレ人が議論するさまが、重唱で音楽化される。

「踊ってほしい」というヘロデの要望を断り続けるサロメ。義父の前で踊りを披露することには性的な含みがあるから、母も制止する。

だが、「ほしいものを何でもあげる」とヘロデが誓うと、とうとうサロメは踊ることを承諾する。

### サロメの踊り

楽師たちが打楽器とともに荒々しいリズムを始める。サロメが合図を送ると穏やかな調べとなり、7つのヴェールの踊りが始まる。

7つ目の踊りの最後で、長いトリルが鳴ると、サロメは、ヨハナーンの幻影をみるかのように井戸をみやって立ち止まる。そしてヘロデの足元に倒れこむ。

なお、この踊りの部分は、スコアが完成したあとに書きあげられた。そのため、スコアはアラビア数字で練習番号が振られているが、この部分だけはアルファベットで区切られている。

ご満悦のヘロデが「何が欲しい?」と尋ねると、サロメは「銀の盆に載せた…」と答える。銀の盆に載せられるべきぜいたく品を、チェレスタなどの楽器がほのめかす。しかし、その続きはこうであった——「ヨハナーンの首を」。ここで初めてサロメは義父を、職名ではなく「ヘロデ」と名指しする。どうなだめようとも「ヨハナーンの首を」とすごむサロメ。

ついにヘロデは折れ、処刑人を井戸に遣わす。シュトラウスはここで、コントラバス奏者1人に、「女性のうめき声」に似た短い音が続けて出すよう指示している。井戸に聞き耳を立てるサロメのうめき声だ。

ヨハナーンの首を前に、サロメは、ティンパニで鼓動を高ぶらせながら愛と恨みが一体となった想いを噴出させ、悲願の口づけをするのだった。

作曲/1902~1905年 初演/1905年12月9日ドレスデン、エルンスト・フォン・シューフの指揮 編成/フルート3、ピッコロ、オーボエ2、イングリッシュホルン、ヘッケルフォン、クラリネット4、Ebクラリネット、バスクラリネット、ファゴット3、コントラファゴット、ホルン6、トランペット4、トロンボーン4、バスチューバ、ティンパニ、大太鼓、合わせシンバル、吊るしシンバル、小太鼓、トライアングル、タンバリン、カスターネット、タムタム、シロフォン、グロッケンシュピール、ハーブ2、チェレスタ、ハレモニウム、オルガン、弦5部  
使用楽譜/プーギー&ホークス

※編成は演奏の都合上、異なる場合がございます。ご了承ください。